

## 将来像検討に当たっての論点ペーパー

## 1. 検討の視点

## &lt;全体方針&gt;

避難指示等の出た地域と住民の方々が、日常への回帰という観点から今後の持続可能な生活の見通しを立てられるようにすることを前提に、まずは、当面の対応として、2020年を目標に、早期帰還可能な地域再生のための具体的なビジョンを描く。その際、避難解除等区域復興再生計画、県の総合計画、各市町村の復興ビジョンやイノベーション・コースト構想といった先行する計画を踏まえつつ、広域的な視点、今後の人口・線量の見通しや産業構造の変化等を踏まえた新たな視点で検討してはどうか。

併せて、その延長で、廃炉、中間貯蔵の時期まで見込んだ、30～40年後の将来のコンセプトを整理、そのコンセプトに到達するための長期的な方策を検討してはどうか。

## &lt;個別の視点&gt;

## 【前提としての「人口減少社会」という視点】

- ・住民意向調査においても全住民が帰還を希望するわけではないこと等を踏まえ、当初からの国の方針どおり、まずは住民の意向を最大限尊重した帰還の実現を目指す、それとともに、いわゆる「人口減少社会」の中で地域のポテンシャルを再評価の上で、外部人材の活用を含めた賑わいの回復を目指してはどうか。
- ・震災から3年半以上経過する中で、相当程度線量が下がっている地域が存在することから、帰還困難区域を含めた各地域の線量の見通しを踏まえ、区域の再見直しを含めた関係部局の検討を考慮した形での、復興の絵姿を検討してはどうか。また、これに伴い、人口の増減の見通しがどうなるか評価し、これに応じた適正な規模感のインフラ整備等を順次進めてはどうか。なお、当面線量が高いと見込まれる地域についても、将来的な地域復興の方針を踏まえて今行う必要のある措置について検討・実行してはどうか。

## 【地域の広域連携という視点】

- ・まずは線量の低い地域を中心に早期復興を進めるために、「12市町村全体での復興」を念頭に置きつつ、各町ごとにすべて単独で再生するようないわゆる「フルセット主義」ではなく、広域的な連携を前提とする合理的な地域構造、集約化したまちづくりを目指してはどうか。
- ・相互の地域的連携を強化するため、12市町村の中でより広域的な行政サービスを実施するために必要な整理を検討してはどうか。

## 【目指すべき地域の将来像】

- ・日常への回帰という観点から、自立(地域の自立・個々の自立)した経済・社会(自ら働き、その対価で暮らしていける日常生活を送ることができる社会)を目指すために必要な整理を検討してはどうか。
- ・世帯主だけではない、30～40年後の復興の主体となるであろう子どもたちの考えを積極的に取り入れるようにしてはどうか。

## 2. 2020年をターゲットとしたビジョン(当面の課題と施策)

例えば、以下のような各論の論点をきっかけとして、専門家や業界などの意見を聞きつつ当面のビジョンを検討してはどうか。

### (1) 広域的なインフラの復旧・復興

道路(6号線、東西に横断する国道・県道、防災道路等)、鉄道(常磐線)、病院、商業施設、インターネット、コンパクトシティ、それらのインフラを繋ぐコミュニティバス等のローカル交通ネットワークの構築

### (2) 産業の振興

○原発・関連産業に頼らない、地域の強みを活かした新産業の創出(帰還者の雇用の受け皿となる産業の振興を前提とした上で、新産業を地域に根付かせるために必要な外部人材のあり方を検討)

○1次産業の在り方の検討

#### ① 農業の戦略的推進

・風評被害対策・販売促進、生産の大規模化、多様な農業への支援(非食用作物等への転換、植物工場)

#### ② 林業、水産業等の在り方の検討

・林業再開、漁業再開の在り方

### (3) 健康、医療

- ・医療拠点の確保(既存病院の統合等)、活用
- ・医療人材の確保(医師、看護師、保健師等)
- ・健康増進のための取組

### (4) 住環境整備

- ・コンパクトシティの設置(再掲)
- ・「二点居住」の考え方

### (5) 教育・人材育成

- ・教育拠点の設置
- ・出口の見える教育メニュー

### (6) 観光の促進

- ・新地域資源(ブランド)の開発
- ・復興のスタディーツアーのためのルート開発
- ・国内外への戦略的PR

### 3. 目指す将来像の構築及びその課題

今後の人口・線量の見通し、産業構造の変化などを踏まえ、将来を担う子どもたちの考えを十分に踏まえつつ、福島12市町村の30～40年後の将来のコンセプトを検討してはどうか。併せて、例えば以下のような視点から、そのコンセプトへ繋ぐための課題を整理・検討してはどうか。

- ・大人が守り、子どもに引き継ぐまちづくり(将来の世代に繋ぐ)
- ・将来魅力ある産業・雇用環境の創設(地域発の産業をどう育てるか)
- ・将来を担う人材を輩出する教育(どのような形で復興に貢献するか)
- ・伝統を踏まえつつも新たな魅力を取り込んだ文化の継承・発展
- ・行政の対応